



株式会社 IDホールディングス  
2021年3月期第3四半期 決算説明資料

代表取締役社長 船越 真樹

東証1部  
証券コード

4709

当社ウェブサイトへの  
アクセスができます。



1

3Q決算について

2

今期に実施したM&amp;A・みずほFGの動向

3

【参考】補足説明資料

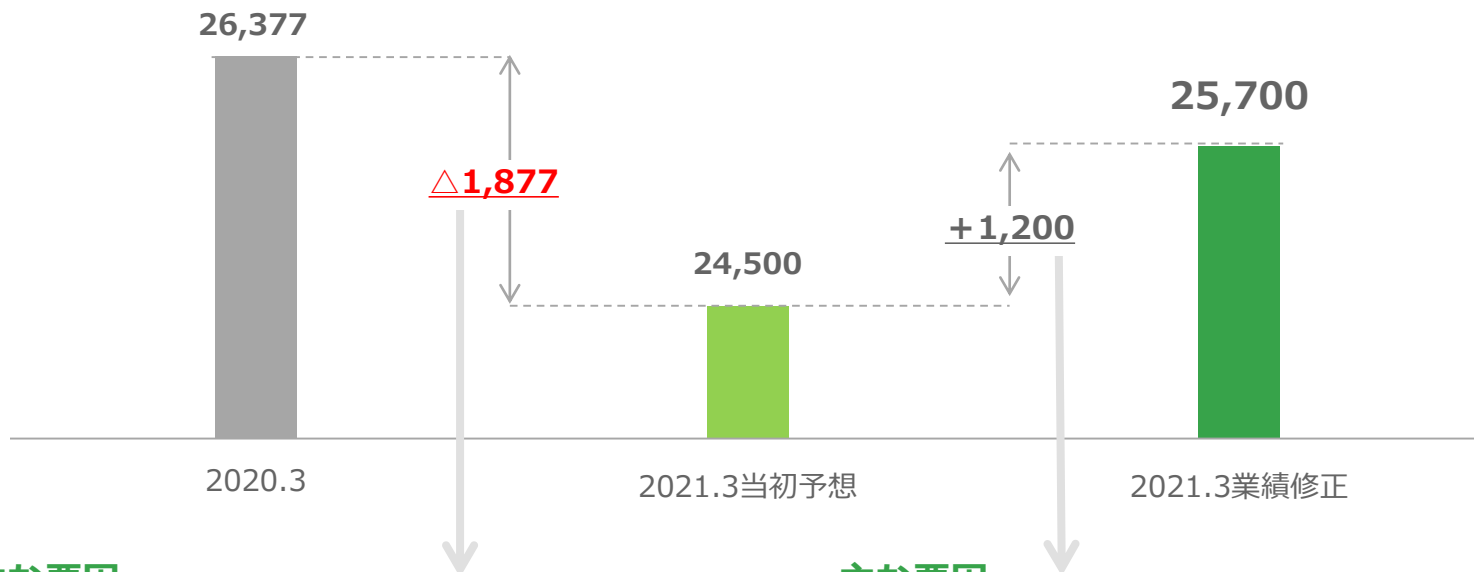
# 2021年3月期通期 連結業績予想の修正

Change or Die!

(単位：百万円)	2021.3計画 (2020年5月15日発表)		2021.3計画 (2021年2月9日発表)		増減額	増減率
	計画	構成比	計画	構成比		
売上高	24,500	-	25,700	-	+1,200	+4.9%
営業利益	2,000	8.2%	1,420	5.5%	-580	-29.0%
営業利益(のれん償却前)	2,254	9.2%	1,768	6.9%	-486	-21.6%
経常利益	2,040	8.3%	1,500	5.8%	-540	-26.5%
親会社株主に帰属 する当期純利益	1,190	4.9%	820	3.2%	-370	-31.1%
1株当たり 当期純利益(円)	106.74	-	73.25	-	-33.49	-

## 売上高の比較

(百万円)



### 主な要因

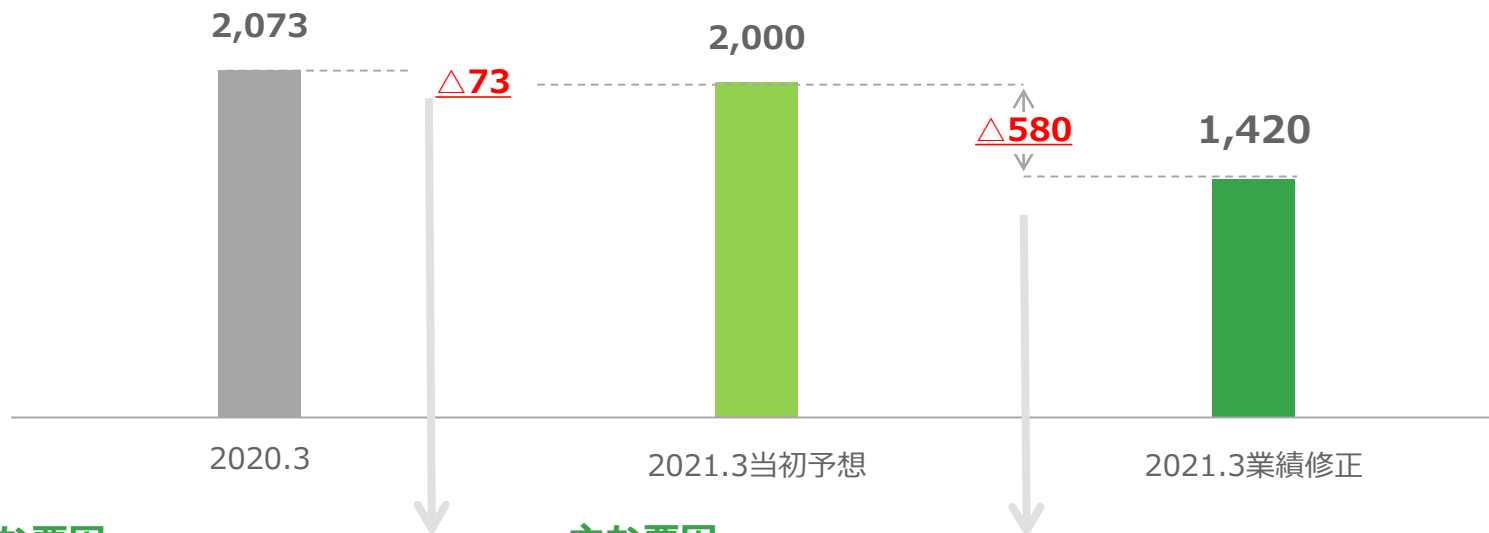
- ⊖ 前期5件大型プロジェクトの完了による反動減
- ⊖ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響による顧客企業のシステム投資計画の見直しによる案件の延期・中止等の可能性を考慮。

### 主な要因

- ⊕ 買収した子会社の寄与 2,033百万円
- ⊕ システム基盤、サイバーセキュリティおよびコンサルティングが堅調
- ⊕ システム運営管理が前期と同水準で推移
- ⊖ コロナ長期化による顧客企業のシステム投資計画の継続的な見直し等

## 営業利益の比較

(百万円)



### 主な要因

- ⊖ 売上高の減少に伴う減益
- ⊕ 販管費の削減

### 主な要因

- ⊖ M&A関連費用 190百万円, のれん償却費 93百万円
- ⊖ 買収した子会社の販管費の計上
- ⊖ 案件の中止や延期にともなう要員待機など
- ⊖ ニューノーマル適応プロジェクトに係る費用の計上
- ⊕ 買収した子会社の寄与 115百万円
- ⊕ 旅費交通費、接待交際費、求人費の減少

### その他特殊要因(当期純利益への影響)

- ⊕ 投資有価証券売却益の計上 308百万円
- ⊖ 特別損失（固定資産売却損）の計上 433百万円

# 2021年3月期第3四半期連結損益状況（前年同期比）

	2019.12		2020.12		増減比	
	実績	構成比	実績	構成比	増減額	増減率
売上高	19,538	-	18,330	-	-1,208	-6.2%
売上原価	14,687	75.2%	13,877	75.7%	-810	-5.5%
売上総利益	4,850	24.8%	4,453	24.3%	-397	-8.2%
販管費	3,131	16.0%	3,506	19.1%	+374	+12.0%
営業利益	1,719	8.8%	946	5.2%	-772	-44.9%
営業利益(のれん償却前)	1,910	9.8%	1,181	6.4%	-729	-38.2%
経常利益	1,752	9.0%	1,035	5.6%	-717	-40.9%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	1,090	5.6%	781	4.3%	-308	-28.3%
EBITDA	2,112	10.8%	1,701	9.3%	-411	-19.5%

Change or Die!

## 183億30百万円 (前年同期比6.2%減)

- ⊕ システム基盤、サイバーセキュリティおよびコンサルティングが堅調
- ⊕ システム運営管理が前期と同水準で推移
- ⊕ 買収した子会社の寄与
- ⊖ ソフトウェア開発およびシステム運営管理などにおいて、前期大型プロジェクト5件の終了による19億86百万円の反動減

### システム運営管理

89億33百万円  
前年同期比0.6%減

- ⊕ 金融関連既存顧客の体制強化にともなう増員
- ⊕ 今期に買収した子会社の寄与
- ⊖ 金融関連既存顧客における前期大型プロジェクト完了にともなう2億24百万円の反動減や要員の削減

### ソフトウェア開発

56億76百万円  
同15.1%減

- ⊕ 今期に買収した子会社の寄与
- ⊕ 既存製造関連プロジェクトへの増員による受注拡大
- ⊖ 公共および金融関連既存顧客における前期大型プロジェクト3件の完了にともなう13億23百万円の反動減

### システム基盤

18億67百万円  
同2.2%増

- ⊕ 今期に買収した子会社の寄与
- ⊕ 運輸関連既存顧客におけるDX関連プロジェクトへの増員による受注拡大
- ⊕ 公共関連既存顧客における新規案件の獲得

### サイバーセキュリティ・ コンサルティング・教育

15億12百万円  
同13.4%増

- ⊕ サイバーセキュリティにおけるオペレーターの増員や製品販売の増加
- ⊕ コンсалティング業務の売上が増加

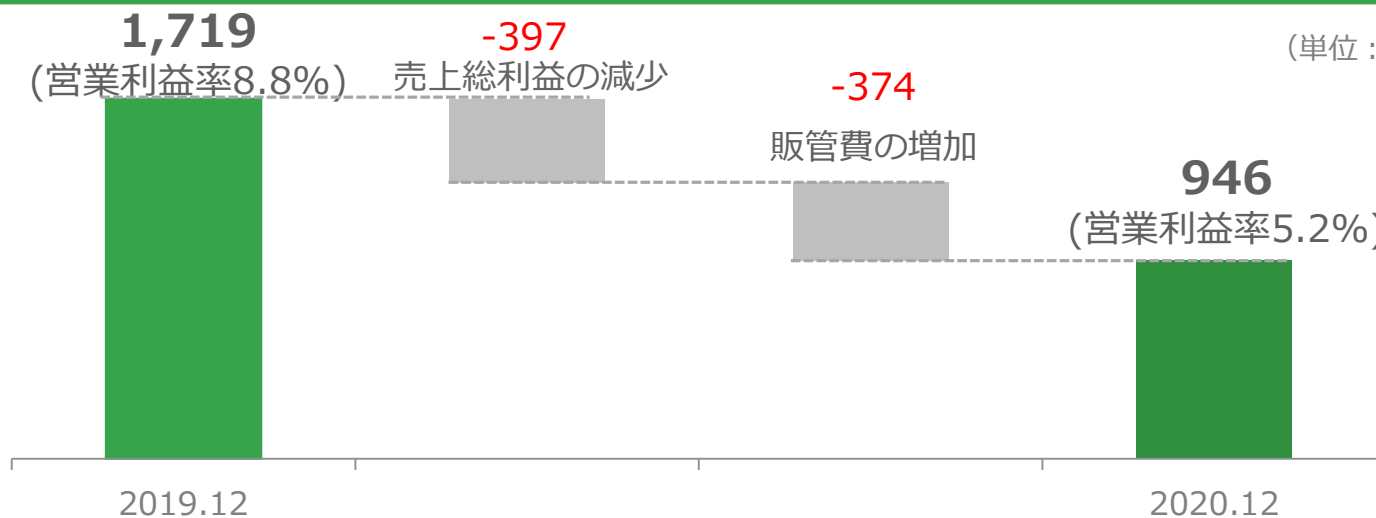
### その他

3億40百万円  
同51.9%減

- ⊖ 金融関連の一部事業の終了
- ⊖ 新型コロナウイルス感染拡大の影響による一部案件の延期
- ⊖ 製品販売における前期大口受注の反動減

# 3Q営業利益の増減要因

(単位：百万円)



## ◆ 売上総利益の減少 -397

- 売上高の減少 -1,208
- 売上原価の減少 +810

### <売上原価の主な減少要因>

- ・ 労務費の減少 +292
- ・ 外注費の減少 +326
- ・ 製造経費の減少 +38
- ・ 仕入の減少 +110

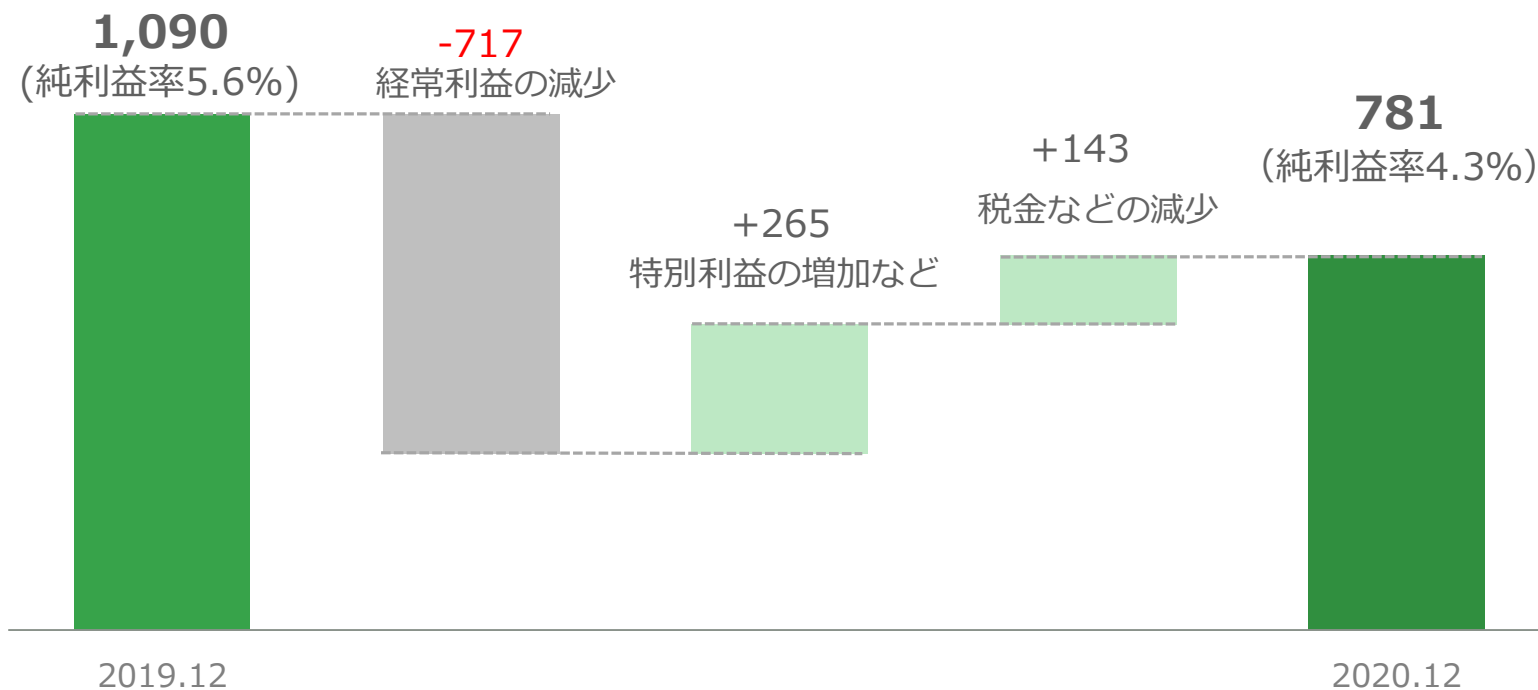
## ◆ 販管費の増加 -374

### <販管費の主な増加要因>

- 人件費の増加 -276
- その他販管費の増加 -98



(単位：百万円)



◆ 経常利益の減少 **-717**

<経常利益の主な増減要因>

営業利益の減少	-772
営業外収益の増加	+63
営業外費用の増加	-8

◆ 特別利益の増加 **+270**

➤ 投資有価証券売却益の増加	+270
----------------	------

◆ 特別損失の増加 **-5**

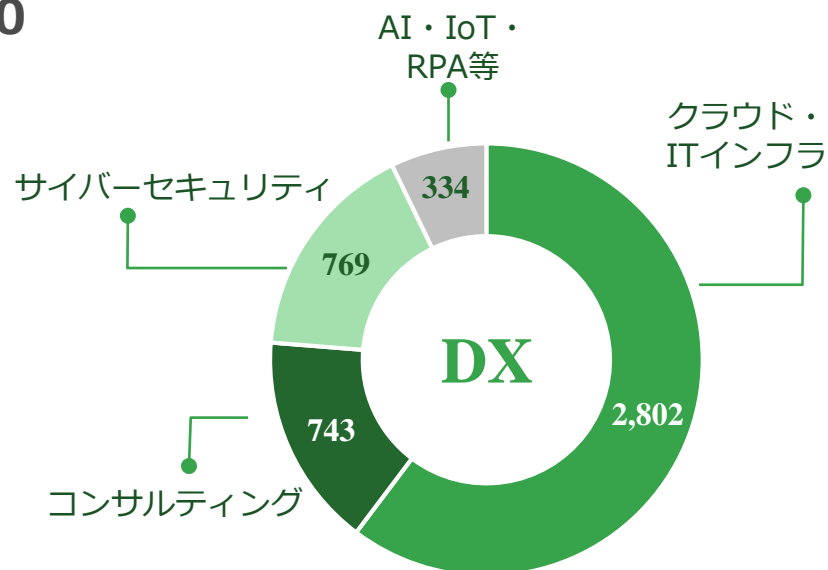
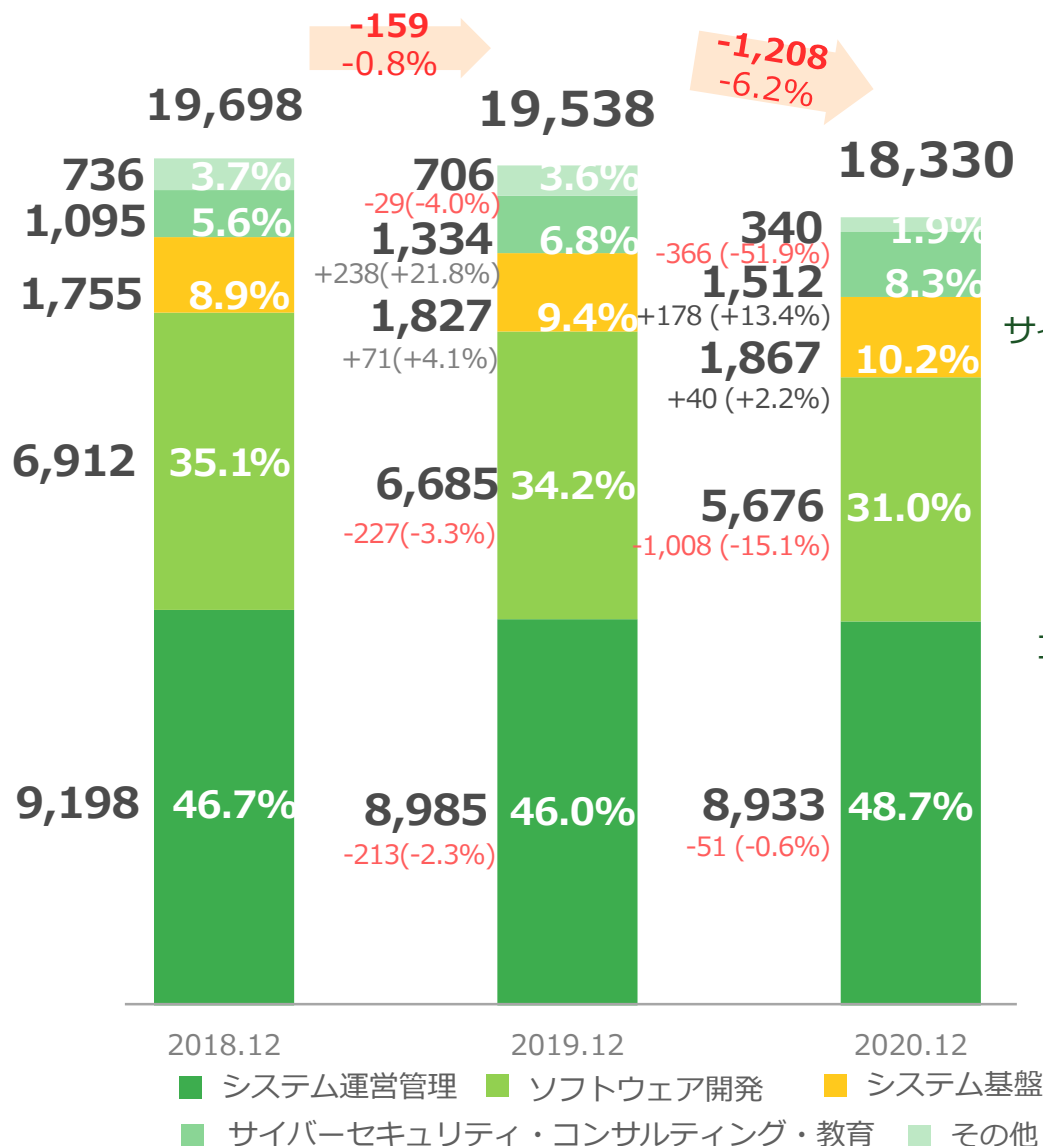
➤ 固定資産売却損の増加	-5
--------------	----

単位：百万円

**DX関連売上高：4,649百万円**

**連結売上高の約25.4%**

【参考】2020年3月期：約21.8%



## ～ DX 関連ビジネス ～

クラウド、サイバーセキュリティ、RPA、AI、IoTなどの先端技術を活用した高付加価値業務、ならびにITSM手法等を活用したコンサルティング業務。

Change or Die!

	ID	DCM	DX	PR	GIT	SD	AT	IDW	IDM	IDS	IDA
コンサルティング (開発)				○							
コンサルティング (ITSM)		○	○								
★ D X 関 連 ★	サイバーセキュリティ	○									
AI・IoT・RPA等	○	○	○								
クラウド・ITインフラ	○	○				○			○		
リモート運用、保守	○	○									
モバイル、アプリ開発	○				○						
自社拠点開発	○					○					○
常駐型システム運営管理	○	○	○					○		○	
常駐型ソフトウェア開発・保守	○	○	○		○	○	○	○	○		
R&D	○										○
その他	○	○	○		○			○	○	○	

## DX 関連ビジネスとは

クラウド、サイバーセキュリティ、RPA、AI、IoTなどの先端技術を活用した高付加価値業務、ならびにITSM手法等を活用したコンサルティング業務。

DX関連売上高： **4,649** 百万円(2021年3月期第3四半期)

連結売上高の約 **25.4 %**

【参考】 2020年3月期 通期：約 **21.8 %**

2,802




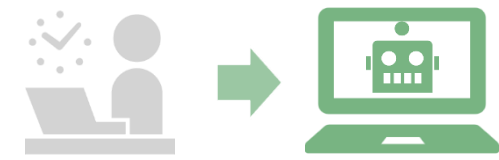


743

769

334

- クラウド・ITインフラ
- コンサルティング
- サイバーセキュリティ
- AI・IoT・RPA等

Change or Die!

①サイバーセキュリティ	②クラウド (ID-Cross)	③ITインフラ
<p>ネットワーク監視、インシデント対応、セキュリティ製品の導入</p> 	<p>クラウドシステムの導入・移行、リモート運用・監視</p> 	<p>クラウドを活用したITインフラを構築</p> 
④RPA	⑤スマートグラス (IDEye)	⑥アジャイル開発
<p>業務分析によって適用対象を選定し、手動で行っていた業務を自動化</p> 	<p>画像・映像・音声のリアルタイム共有で遠隔作業を支援</p> 	<p>短期間に小規模なサイクルを繰り返し、システムを構築</p> 

1

3Q決算について

2

今期に実施したM&amp;A・みずほFGの動向

3

【参考】補足説明資料

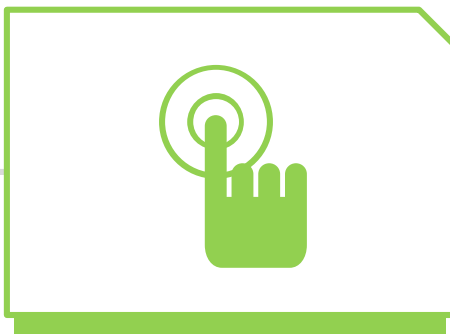
M&A戦略によって事業領域を拡大し、さらなる成長を図る。

## 技術者の獲得



優れた技術者を獲得し、  
生産体制を強化

## 技術領域の拡大



新分野への進出およびDX  
の推進により、新たな収  
益の柱を創出

## 顧客基盤の強化



新たな顧客を獲得し、顧  
客基盤を強化

Change or Die!

対象企業の技術領域・顧客基盤・技術者などを、  
IDグループの経営資源とかけあわせることで、シナジーの創出を図る

## 概要

本社	愛知県名古屋市中村区
売上高	347百万円（2019年9月期）
従業員数	45名（2020年12月31日時点）

## 時期

- 子会社化：2020年6月30日（100%）

## 狙い

## 技術者の獲得

- 大手自動車会社向けソフト開発技術者の獲得

## 2021年4月以降の取組み

（経営方針）IDとの合併による相乗効果の早期実現（2021年4月1日合併）

ターゲット顧客への営業推進  
・大手自動車会社向け提案の実施

中部エリアにおける生産体制の強化  
・ソフトウェア開発体制の増強  
（技術者が2倍に）

## 概要

本社	東京都豊島区
売上高	1,918百万円 (2019年7月期)
従業員数	210名 (2020年12月31日時点)

## 時期

- 子会社化：2020年8月3日（100%）

## 狙い

## 技術/サービス領域の拡大

- 携帯端末(モバイル)アプリ開発事業の獲得

## 2021年4月以降の取組み

## (経営方針) 事業の選択と集中

## ターゲット顧客とモバイルシフト

- 大手通信顧客やモバイルアプリ開発分野へのシフト

※OS：iOS,Android

## 生産体制の強化

- モバイルアプリ開発分野におけるIDとの協業（モバイルアプリ開発技術者34名）



## 概要

**本社** 東京都江東区 / 茨城県日立市

**売上高\*** 2,797百万円(2019年12月期)

**従業員数  
(連結)** 181名 (2020年12月31日時点)

※(株)ウイズ・ホールディングスと(株)システムデザインの財務諸表をもとに試算しています。

## 時期

- 子会社化：2021年1月4日（78.4%）
- 完全子会社化：2021年1月27日（100%）

## 狙い

### 顧客の獲得

- 業界最大手の戦略パートナー（大手製造企業）の獲得

## 2021年4月以降の取組み

（経営方針） コアパートナーを活用した共同営業と生産体制の構築

### ターゲット顧客への共同営業

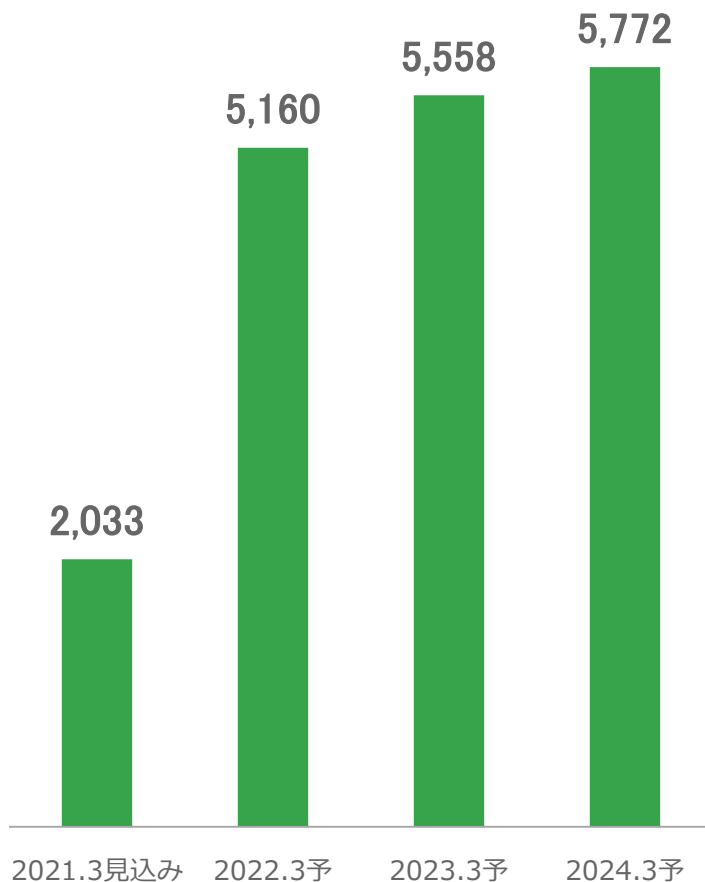
- コアパートナーを活用した共同営業による受注拡大

### 大型案件獲得、基盤/運用への展開

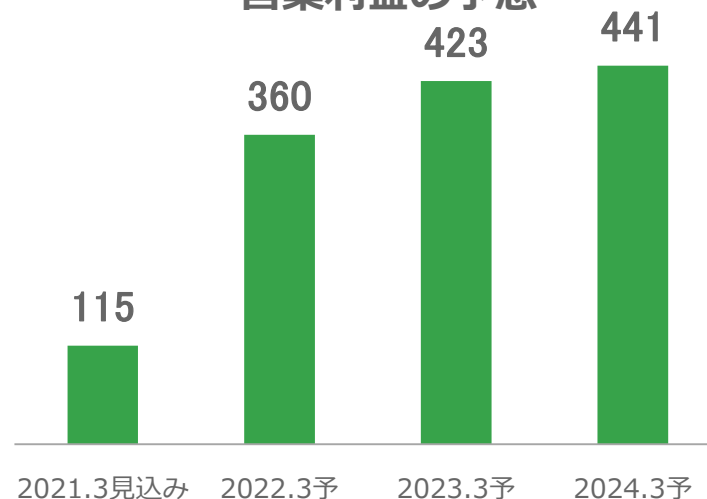
- IDとの協業による大型案件の獲得、基盤/運用への横展開

単位：百万円

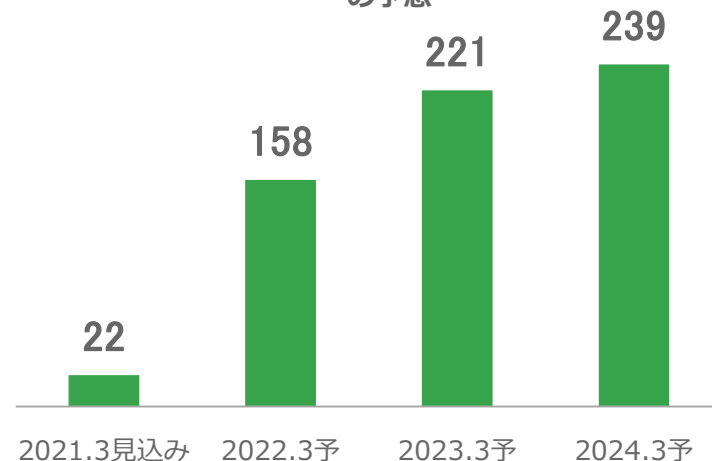
## 売上高の予想



## 営業利益の予想



## 「営業利益－のれん償却費（3社合計）」の予想



※2022.3予以降の数字については、2020年11月末時点の計画に基づくもので、今後変更される可能性があります。

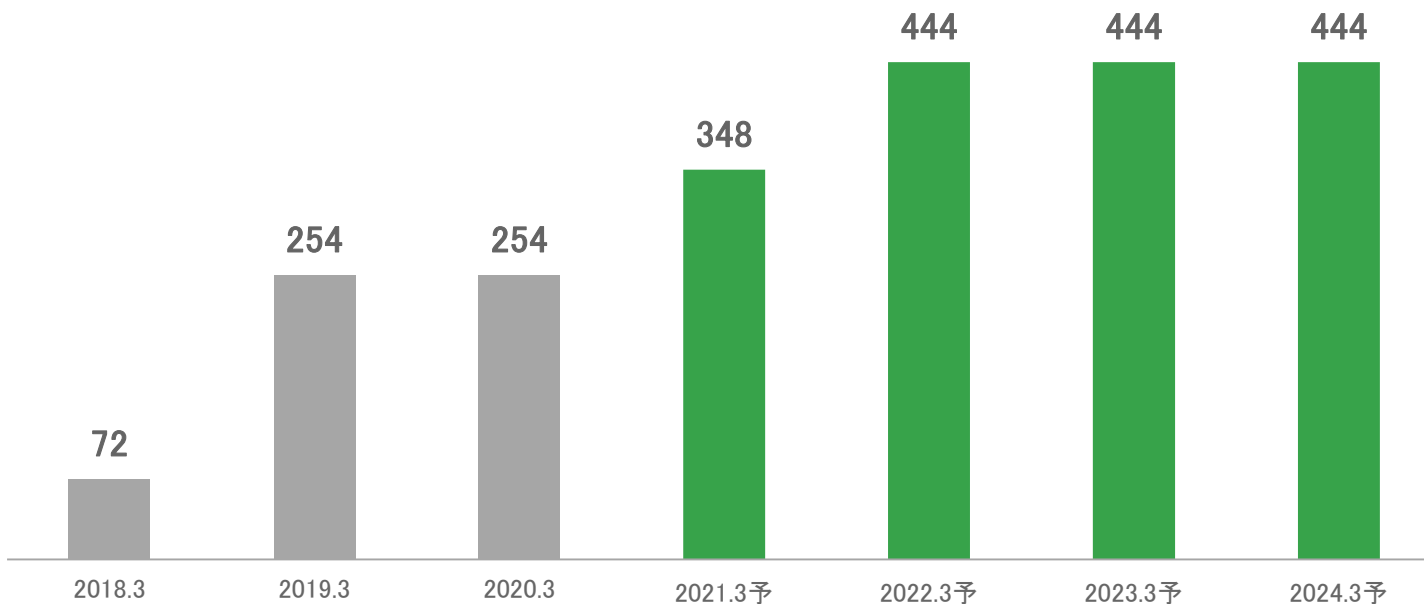
## <買収した企業の株式取得時期>

企業名	テラコーポレーション	IDデータセンター マネジメント※	アクティブ・ティ	GIテクノス	ウィズHD (システムデザイン)
取得時期	2016年4月	2018年1月	2020年6月	2020年8月	2021年1月

※2020年4月1日付で株式会社フェスより商号を変更しています。

## <のれん償却費のシミュレーション（連結）>

(単位：百万円)



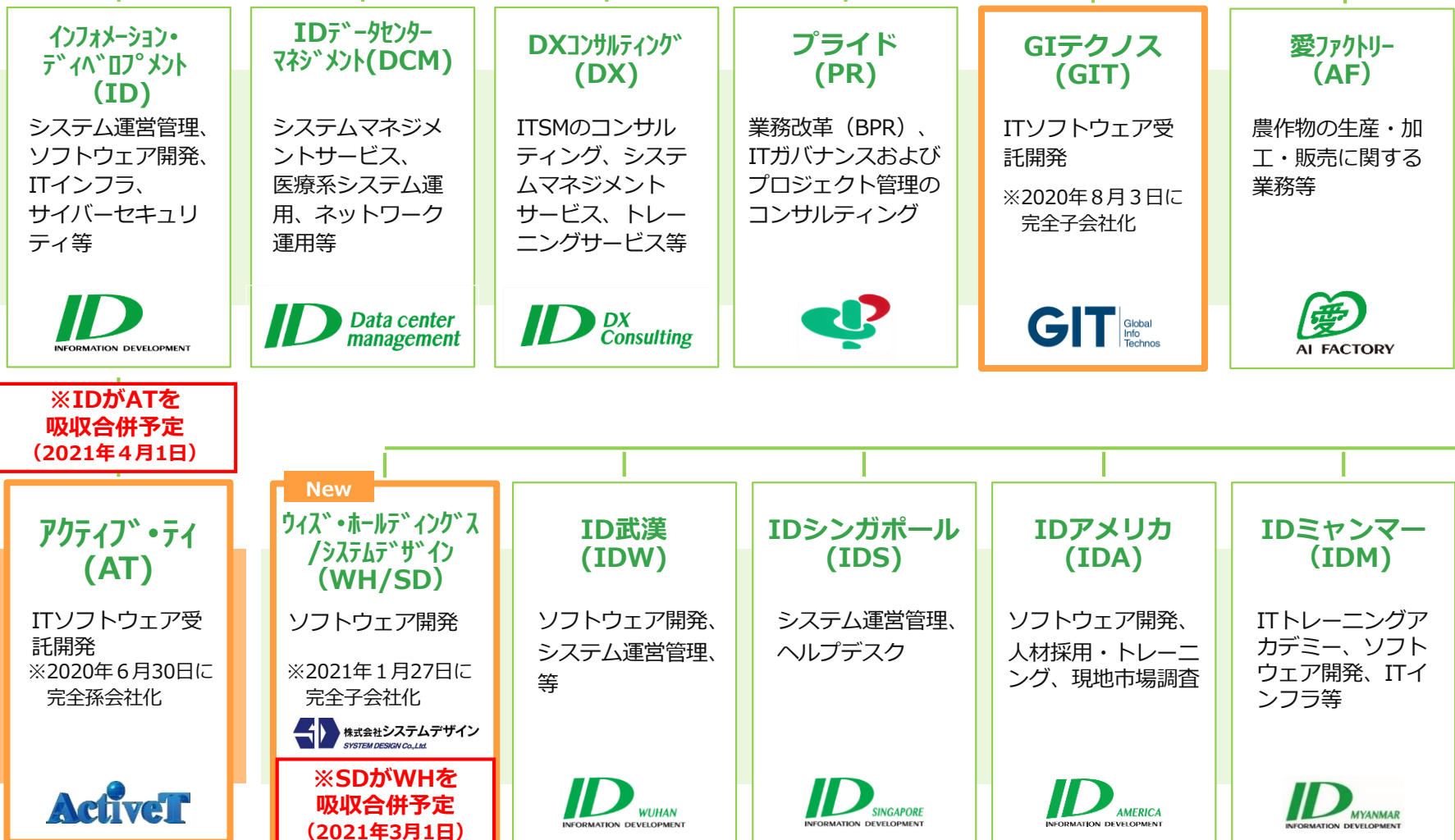


資本金 5億9,234万円

創立 1969年10月

社員数 連結 2,617名

Change or Die!

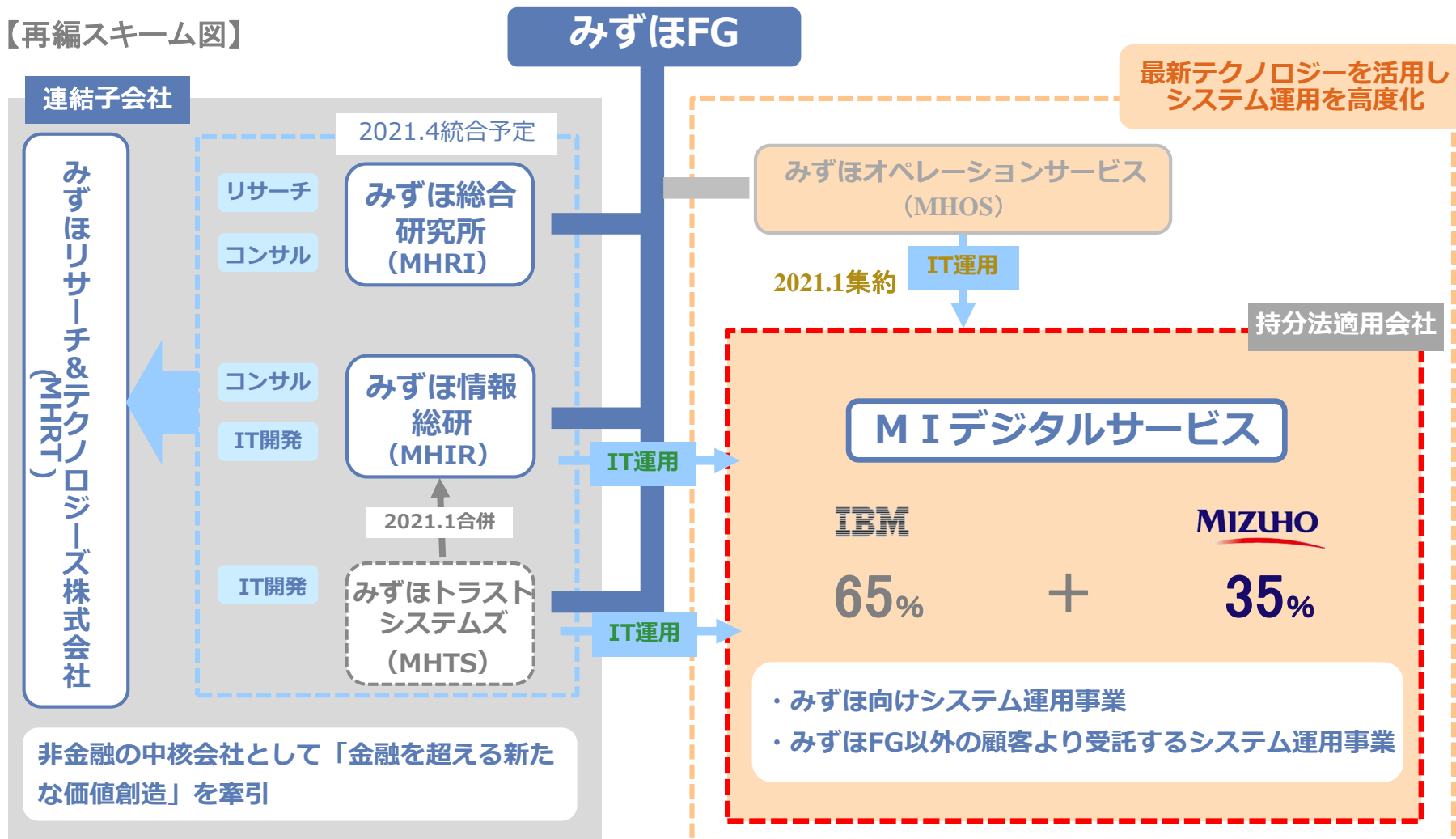


\* 上記以外にSD社関連会社としてINNOVA SOFTWARE Co., Ltd. (タイ)

📢 2020年6月30日付で、日本アイ・ビー・エム株式会社と株式会社みずほフィナンシャルグループによる新たなシステム運用会社MIデジタルサービス株式会社が発足。

📢 2021年1月にMHIR、MHTSのシステム運用機能をMIデジタルサービスへ集約。

【再編スキーム図】



Change or Die!

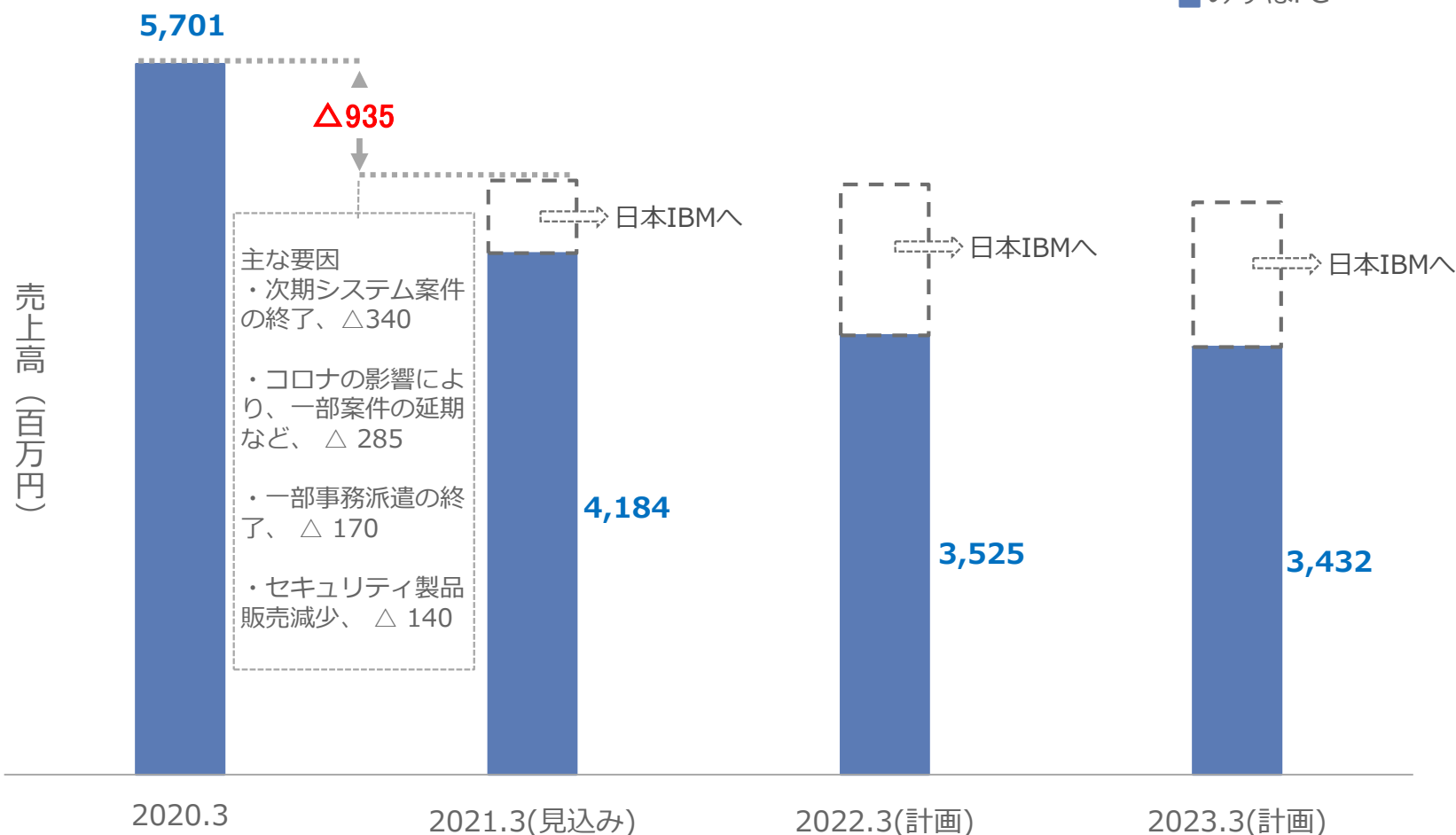
出所：株式会社みずほフィナンシャルグループが2020年6月2日に発表の「日本アイ・ビー・エム株式会社と株式会社みずほフィナンシャルグループによるシステム運用会社の合併契約締結について」の図表を一部修正。

みずほFGの子会社再編により、従来みずほFG向けであった売上高の一部がMIデジタルサービス(日本IBM子会社)向け売上高として計上される。

## <みずほFG向け売上高の推移>

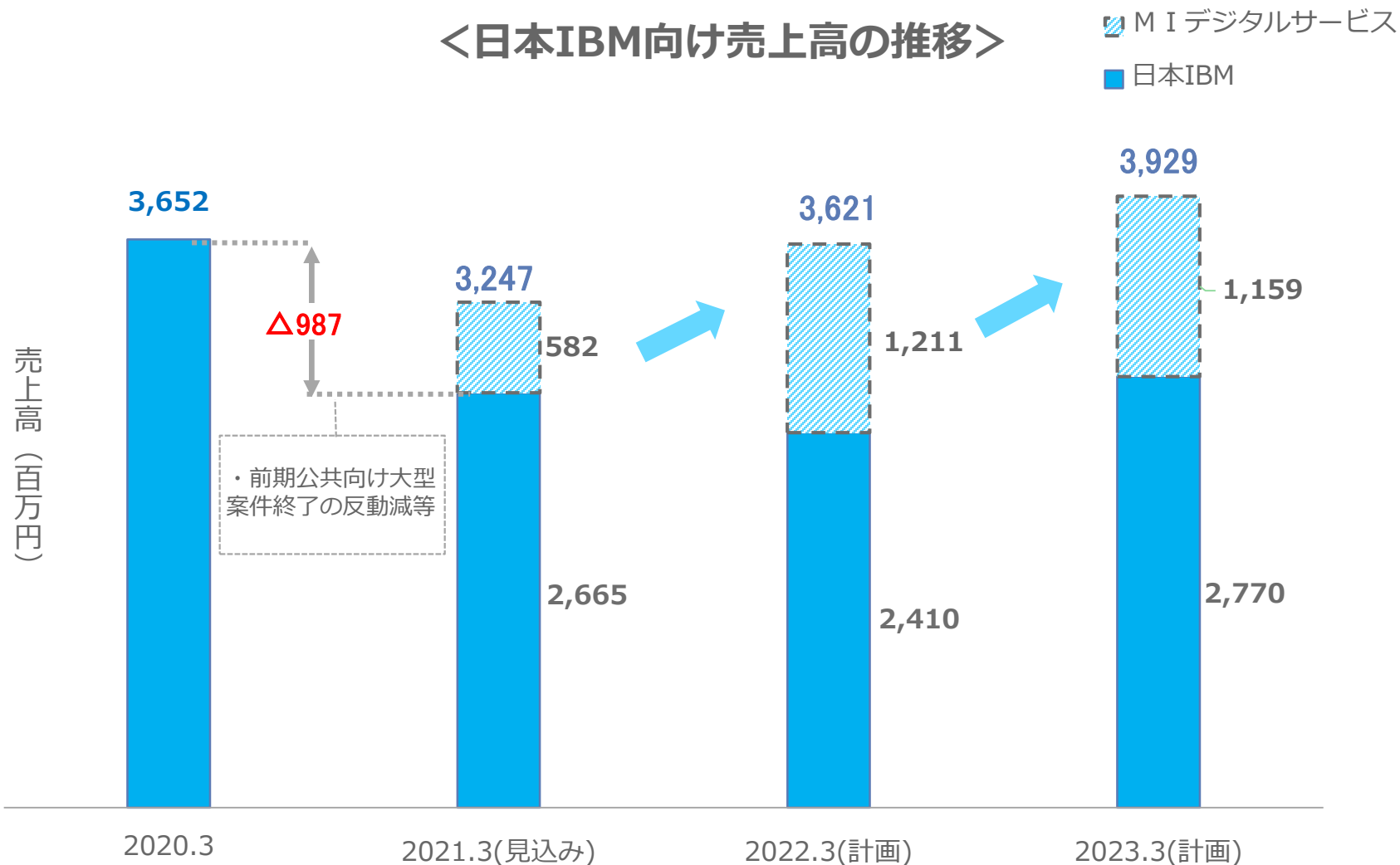
MIデジタルサービス

みずほFG



みずほFGの子会社再編により、従来みずほFG向けであった売上高の一部がMIデジタルサービス(日本IBM子会社)向け売上高として計上される。

## <日本IBM向け売上高の推移>



## みずほグループの最近の動き

- IT子会社の組織再編（システム運用事業をMIDSへ、開発事業はMHIRへ集約）
- データセンターの再編（国内複数拠点の統廃合）

## 当社グループの今後の取り組み

- データセンター再編に伴うシステム基盤・開発案件の獲得
- 日本カストディ銀行のシステム統合にともなうシステム基盤・開発案件の獲得
- IBM運用コアパートナーを活用したシステム運用事業の拡大
- 開発業務がMHIRに集約化されることによる開発事業の拡大

MI デジタルサービス  
(MIDS)

IBM 65% + MIZUHO 35%

IBM運用  
コアパートナー



運用業務拡大

みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社  
(MHRT)

みずほ  
総合研究所  
(MHRI)

みずほ  
情報総研  
(MHIR)

みずほトラスト  
システムズ  
(MHTS)

銀行システム



信託システム

基盤、開発事業の拡大



1

3Q決算について

2

今期に実施したM&amp;A・みずほFGの動向

3

【参考】補足説明資料

	2020.3	2020.12		主な増減要因
	(単位：百万円) 実績	実績	増減額	
流動資産	10,116	10,723	+607	現金及び預金の増加(+1,291)
固定資産	5,133	7,131	+1,997	3件のM&Aによるのれんの増加 (+1,143)
資産合計	15,249	17,854	+2,604	投資有価証券の増加 (+274)
流動負債	5,857	7,077	+1,219	賞与引当金の減少(-724)
固定負債	661	1,400	+739	3件のM&Aの資金調達による有利子負債の 増加(+2,583)
負債合計	6,519	8,478	+1,959	
純資産合計	8,730	9,376	+645	親会社株主に帰属する四半期純利益(781) その他有価証券等評価差額金の増加(+140) 配当金支払(-571)
負債純資産合計	15,249	17,854	+2,604	

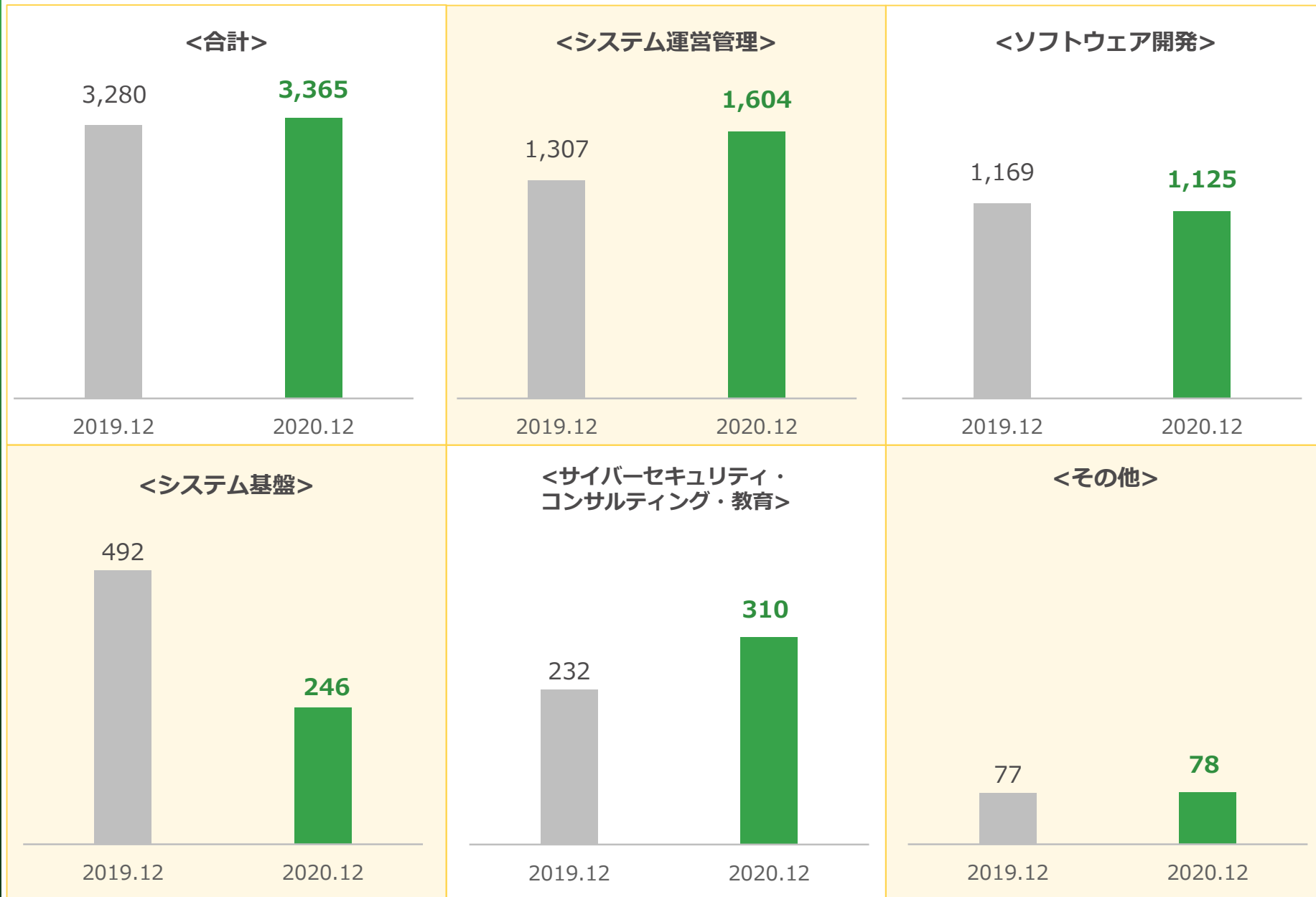
自己資本比率：**52.2%**

流動比率：**151.5%**

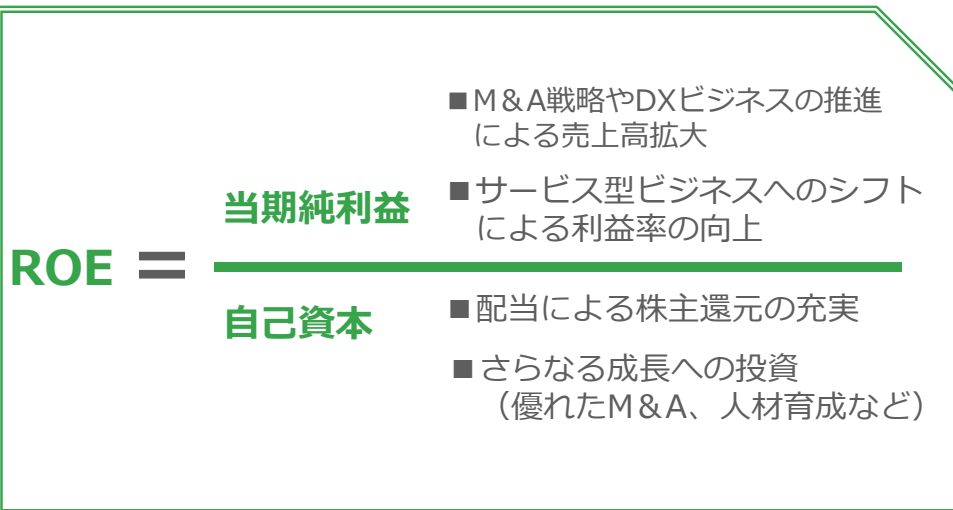
# サービス別受注残高（累計）

単位：百万円

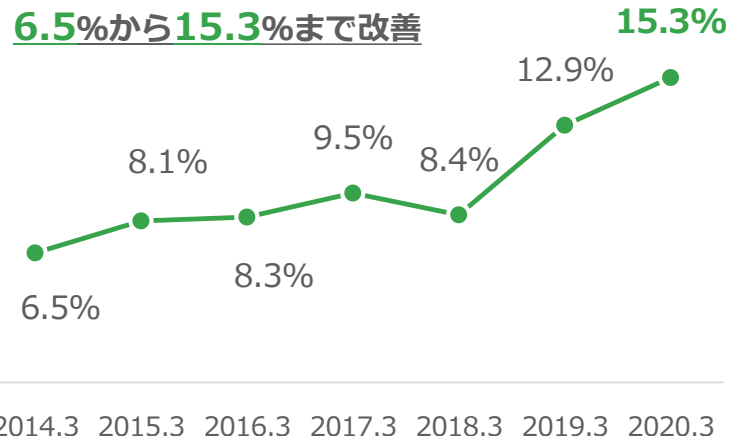
Change or Die!



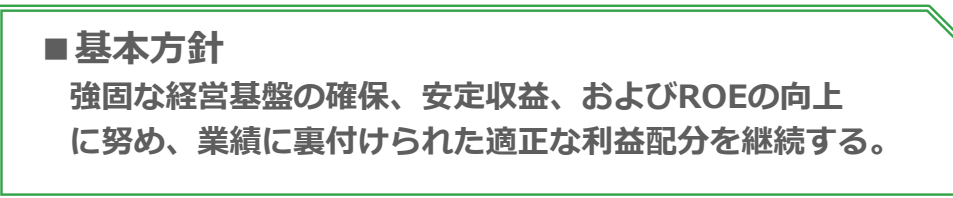
## 資本効率向上の施策



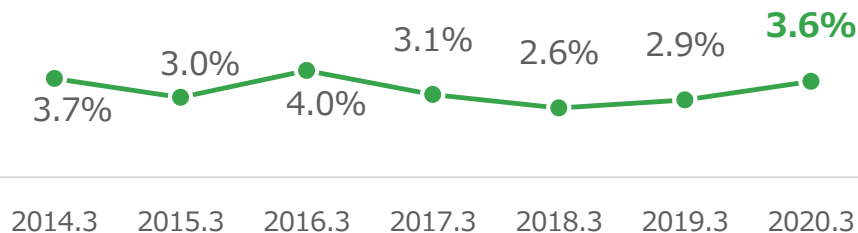
## ROEの推移



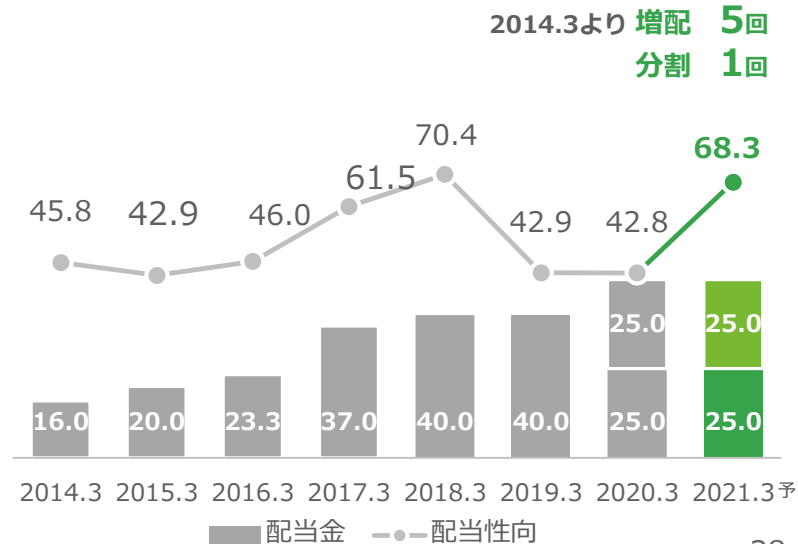
## 株主還元の充実



## 配当利回りの推移



## 1株当たり配当金および配当性向の推移



## 免責事項

本プレゼンテーション資料には、株式会社 IDホールディングスの業績予想、将来戦略、事業計画などの将来情報や経済動向、他社との競争状況などの潜在的リスクや不確実な要素が含まれています。

これらの歴史的事実以外の情報に含まれる予測及び計画は、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断しています。

その為、実際の業績、事業展開または財務状況は、今後の経済動向、業界における競争、市場の需要、為替レート、その他の経済・社会・政治情勢などの様々な原因により、記述されている将来予測及び計画とは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。